


2012(仏暦2555)年1月号(第72号)

万行寺寺報

Mangyoji Jiho

発行
浄土真宗本願寺派
万行寺 山崎信充
〒385-0003
長野県佐久市下平尾461-1
電話 0267-67-2460



光
寿
無
量

■住職法話

一年の節目は「御恩の鐘」を

■仏事のイロハ

初詣は神社にお参りするもの？

■本願寺の本

「親鸞 激動篇」五木寛之

■お知らせ、編集後記

Photo

元日は晴れて、「初日の出」は全国的に見ることが出来たようです。

私は、家族が増えて、初めての年越しになりました。子の日々の成長に感謝する一年の始まりでした。

本年もどうぞ宜しくお願い致します。

住職 法話

一年の節目は「御恩の鐘」を

新年が明け、干支も卯から辰になりました。昨年末に、年末恒例の干支の引き継ぎ式をしたというニュースが私は少し気になりました。

大阪の通天閣で毎年開かれているように、干支のウサギとタツノオトシゴを並べて、「なでしこジャパンが世界」とウサギばらし(憂さ晴らし)してくれましたが、全体的にうさぎ込んだ(ふさぎ込んだ)一年。脱兔のごとく逃げ出したい」とシヤレを交えて一年を振り、「景気も復興も昇竜のように上り調子にしてみせます。昨年のことを忘れ、皆様に『竜飲』(留飲)を下げていただき『辰者』(達者)

な年にしてみせます」と来年の行く先を述べていました。

その中で、「昨年のごとは忘れ:」という言葉は、本当に忘れて良いのかと言いたくなる表現でした。確かに、大震災があり景気も悪くなる一方で大変な一年になりました。しかし、それらの出来事は決して忘れ去られるものであつてはなりません。大げさかもしれませんが、震災や事故などは、他人事として人間の欲の中に埋もれてしまい、このようにして忘れ去られていくものだと感じられる言葉でもありました。

来には様々な説があるようですが、百人といわれる人間の煩惱が鐘をつくことによつて、この夜に取り除かれるところから呼ばれるようになったそうです。大晦日に、一年の災いや苦しみが除かれて、新しい年を淨い心で始めたいという気持ちの表れでしょう。干支の引き継ぎ式の「昨年のことは忘れ:」に似ているような気がします。

昨年(おみそか)は東日本大震災があり、被災者をはじめ多くの方が心重き一年でした。苦しみが絶えなかつたと思われます。まだ復興すら進んでいません。そんな苦しみも「除夜の鐘」で無くなつたのかと思いたくありません。また、無くなつていけば良いのにも考えてしまいます。

どうしても、仏さまの前で「こうなつて欲しい」と、私に都合の良いことをお願いしてしまいます。しかし、浄土真宗は、私の都合を仏さまにお願いするという教えではありません。今年一年おかげさまで過ごさせていただきまして、たという「御恩報謝」の心で鐘をついて欲しいものです。

鐘は「ゴーンゴーン」だから「御恩御恩」と聞こえるといったお話をいただいたことがあります。大晦日は、「除夜の鐘」ではない「御恩の鐘」をつきましよう。



仏事のイロハ

初詣は神社にお参りするもの？

お正月になる
と、毎年、おおぜ
いの方が初詣に出
かけます。テレビ
では、あちこちの
有名な神社の参拜
風景を中継し、ま
た、どこそこの神
社に何人の参拜者
があったかなどを
報道したりしま
す。ちなみに、東
京では明治神宮、京都では伏
見稲荷、大阪では住吉大社と
いった所が百万人単位の参拜
者を集めるようです。

これを見ても明らかなよう
に、どうも「初詣」と言えば、
神社にお参りする人が圧倒的
に多いようです。

実は、私のお寺でも、正月
三ヶ日は修正会のお勤めをし
ており、「初詣にはお寺にお

越し下さい」と呼びかけてい
るのですが、残念ながらお参
りの人は少なく、門徒の方で
もなぜか神社へお参りされま
す。

それでは、どういう思いで
初詣に出かけるのかと言う
と、レジャー気分や雰囲気も
あるでしょうが、中身は「願
いごとをする」のが多いので
はないでしょうか。「ことし
一年、健康でありますように」
とか「仕事、事業がうまくゆ
きますように」とか、また、
若い人であれば「よい結婚相
手が見つかりますように」「希
望の会社、学校に入れますよ
うに」といった類の願いを
かけるのでしょうか。

「初詣」という言葉から連
想されるのは、以上のように
「神社」「願いごと」となっ
てきます。

しかし、初詣は「新年の初
参り」ということですから、
やはり、自らの信じる教えに
則して、その宗教施設にお参
りするのが本筋ではないでし
ようか。ご門徒であれば、当
然のこと、所属のお寺なり、
ご本山にお参りするというこ
とです。

ただでさえ、己れの欲望や
願いばかりが前面に出がちな
私たちです。心改まるお正月
なのですから、じっくりと我
が身を振り返り、人生にとつ
て何が大切かを見つめなが
ら、確かな依り所となるお念
仏を味わってみましょう。そ



れでこそ「門徒の初詣」で
す。

また、元旦には家庭のお仏
壇でも、家族そろってお参り
しましょう。お飾りは五具足
と打敷をし、餅を供えます。

ポイント

●初詣は、所属のお寺か本山
へお参りしましょう。

●お仏壇でも家族でお勤め
を。

「仏事のイロハ」末本弘然著、本願寺
出版社刊より」

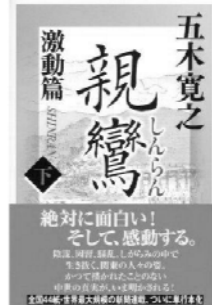
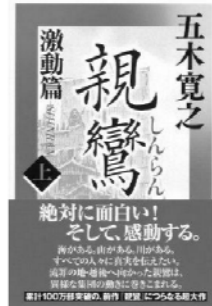
「住職談」地方によって、正月の過ごし
方は様々です。お寺、本山に初詣のお
参りをと呼びかけは大切ですが、まず
は身近な家庭のお仏壇でのお参りを
すすめします。お仏壇で家族一同揃っ
て新年のご挨拶をして、それから一年
が始まるのだと思います。お寺に初詣
にお越し下さいは、その後でも私は
言いたいです。

～本願寺の本～

『親鸞 激動篇』上・下 五木寛之
講談社 定価 各1,575円(税込)

全国44紙、信濃毎日新聞にも、昨年、一年間、連載をされた「親鸞 激動篇」が単行本になって発売されました。信濃毎日新聞からも予約限定のみで発売されました。

絶対に面白い！ そして、感動する。
海がある。山がある。川がある。すべての人々に真実を伝えたい。流罪の地・越後へ向かった親鸞は、異様な集団の動きに巻きこまれる。
陰謀、因習、騒乱。しがらみの中で生き抜く、関東の人々の姿。かつて描かれたことのない中世の真実が、いま明かされる！（講談社紹介文より）



万行寺門信徒会より

本年度の年会費納入いただきました方には、御礼を申し上げます。
まだ、納めていただけていない方におかれましては、今年度内で受け付けておりますので、何卒、ご理解ご協力のほどお願い申し上げます。 合掌

編集後記

年があらたまり、この寺報の発行も七年目に突入しました。毎月、少しでも気軽に仏さまの教えにふれていただきたい思いで続けてまいりました。あれこれと寺の行事の報告などを伝える単なる情報新聞にはしたくなく、気軽に読むには丁度良い内容かと思っております。本年も宜しくお願い致します。◆「仏事のイロハ」のコーナーは、本の内容に従って順番に掲載していますが、偶然にも正月に相応しいお題になりました。「住職法話」も合わせて、年末年始の仏事を問う話題にしました。

